

令和7年7月29日
建設局
環境局
(公財)東京動物園協会

環境省、NPO 法人小笠原自然文化研究所と同時発表しています

オガサワラカワラヒワが巣立ちました

オガサワラカワラヒワは、絶滅危惧種であり「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」に基づく国内希少野生動植物種に指定されており、生息域外保全事業の一環として、恩賜上野動物園（園長 福田豊）や父島施設において飼育繁殖に取り組んでいます。

このたび、オガサワラカワラヒワが産卵・孵化し、動物園として初めて恩賜上野動物園で2羽、父島の2施設で4羽が巣立っています。

1. 経緯

恩賜上野動物園ではこれまで、母島属島に生息し絶滅が危ぶまれている小笠原諸島の固有鳥類であるオガサワラカワラヒワの保全に貢献するため、本土に生息する近縁種であるカワラヒワを導入し、飼育繁殖技術の確立に努めてきました。また、オガサワラカワラヒワの保全に関する技術の開発や普及啓発に、関係各局や地元活動団体等とともに取り組んでいます。

2021年度から父島の施設においては、生息域外保全の取組として、環境局及び小笠原支庁による捕獲個体の飼育の試みが進められてきました。

これらの保全の取組にも関わらず、近年の気候変動等の影響による個体数の減少が報告され、動物園においてもオガサワラカワラヒワの飼育下繁殖の必要性が高まったことから、2025年3月18日に父島内の施設から2羽を恩賜上野動物園に受け入れました。そして2025年7月、産卵を経てヒナ2羽が孵化し、無事巣立ちに至りました。また、父島の施設では、同年6月にヒナ1羽、7月に3羽が巣立ちに至っています。



【オガサワラカワラヒワのヒナ(中央の2羽。2025年7月7日恩賜上野動物園内で撮影)】

【問い合わせ先】

恩賜上野動物園の取り組みについて

(公財) 東京動物園協会

【恩賜上野動物園】教育普及係
建設局公園緑地部計画課
父島（都施設）の取り組みについて

環境局自然環境部緑環境課

金子・秋川
渡部・奥山

橋本・中野

電話 03-3822-5811（直通）／03-3828-5171（代表 ※17時まで）
電話 03-5320-5374（直通）・内線 41-257

電話 03-5388-3508（直通）

2. 巣立ちまでの状況

・恩賜上野動物園

2025年6月15日 メスが巣にいることが多く、産卵の可能性ありと判断

同 7月1日 オス、メスとも巣の縁にとまり、ヒナを育て始めたと思われる（6月30日孵化と推定）

同 7月3日 巣内に2羽のヒナを確認

同 7月14日 ヒナが巣立つ 2羽

・父島

（都施設）

2025年5月30日から6月1日 産卵 3卵

同 6月13日から15日 孵化 3羽

同 7月1日から3日 ヒナが巣立つ 3羽

（NPO施設）

2025年5月22日から5月25日 産卵 4卵

同 6月7日 孵化の確認

同 6月26日 ヒナが巣立つ 1羽（3羽は死亡を確認）

3. 公開及び取材について

当面の間は公開の予定はありません。また、飼育舎内の取材はできませんのでご了承ください。

4. 国内の飼育状況（2025年7月29日現在）

・恩賜上野動物園 4羽（うち2025年生まれ 2羽）

・父島 10羽（うち2025年生まれ 4羽）

（都施設） 7羽（うち2025年生まれ 3羽）

（NPO施設） 3羽（うち2025年生まれ 1羽）

【参 考】

●オガサワラカワラヒワ（スズメ目 アトリ科）

（環境省レッドリスト：CR（絶滅危惧ⅠA類））

学 名 *Chloris kittlitzii*

英 名 Ogasawara Greenfinch

分 布 東京都小笠原村の一部

生態等 全長は130mm。外見は本土に生息するカワラヒワに似ていますが、翼や尾がやや小さく、くちばしが相対的に大きいです。また、オスはメスより鮮やかな色彩をしています。種子食で、時期に応じて多彩な植物の種子を食べますが、近年は外来種であるトクサバモクマオウの種子を多く食べていることが確認されています。外来のネズミ類やノネコ、気候変動などによる餌資源の枯渇、渇水などの影響により個体数が急激に減少しており、絶滅が危ぶまれています。

2025年 春繁殖の結果概要

オガサワラカワラヒワ保護増殖事業検討会資料
加工抜粋

飼育施設	父島施設		上野動物園	iBO(参考※)
飼育ペア	#14♂×#15♀	#11♂×#7♀	#12♂×#16♀	#13♂×#9♀
1クラッチ目	・3卵を産卵 ・全て孵化・巣立ち ・3羽は順調に自然 育雛中	・交尾の有無は 未確認 ・産卵に至らず ・換羽開始したため 春繁殖終了	・交尾は未確認 ・3卵を産卵 ・全て無精卵	別途報告
2クラッチ目			・交尾は未確認 ・4卵を産卵 ・全て無精卵	
3クラッチ目			・交尾は未確認 ・4卵を産卵 ・うち2羽がふ化・巣 立ち ・2羽は順調に自然・ 育雛中	

※2025年3月27日に環境省により開催されたオガサワラカワラヒワの飼育技術開発に関するweb会合の結論により、東京都から飼育個体を譲渡
詳細はNPO法人小笠原自然文化研究所(iBO)より別途報告

2025年 父島施設 春繁殖の結果

オガサワラカワラヒワ保護増殖事業検討会資料
加工抜粋

1クラッチ目 孵化～巣立ちを確認



6月20日 6-8日齢のヒナと親鳥（給餌）



5月26日 交尾を確認



5月30~6月1日 3卵を産卵後抱卵



2025年 上野動物園 春繁殖の結果

オガサワラカワラヒワ保護増殖事業検討会資料
加工抜粋

3クラッチ目 孵化～巣立ちを確認



6月15~18日 4卵を産卵後抱卵



6月30日 2羽の孵化を確認



7月14日 14日齢のヒナ（巣立ち）



7月7日 7日齢のヒナと親鳥ペア（給餌）